

2019 年度第4回支部集会【東北支部】

「ちょっと『となり』を覗いてみよう—日本語教育の多様なありようを学び合う」

主催：公益社団法人日本語教育学会

日時：2019 年 12 月 14 日(土) 9:55～17:05(受付開始 9:30)

会場：東北大学川内南キャンパス 文学研究科棟(C13)

(〒980-0862 宮城県仙台市青葉区川内 27-1)

交通アクセス：https://www.tohoku.ac.jp/map/ja/?f=KW_C13

仙台駅より地下鉄東西線八木山動物公園行きで「国際センター駅」か「川内駅」で下車(5分)。各駅より徒歩5分。

参加費：500円 (当日会場にて現金にてお支払いください)

申込方法：事前申込を推奨しますが、定員に空きがある場合、当日参加も可能です。

【事前登録の場合】事前参加登録いただきますと、予稿集を事前に閲覧できます。[学会ウェブサイト「マイページ」](#)から12月11日(水)までに手続きをお願いいたします。事前参加登録方法について詳しくは[「こちら」](#)をご覧ください。非会員の方も「マイページ」をご利用いただけます(年会費納入等は不要です)。参加費500円は当日会場にてお支払いください。

【ご注意】予稿集は電子版のみとなっておりますが、会場でのインターネット使用の提供はございません。お手数ですが、事前参加登録して事前にダウンロードまたは印刷していただくか、当日、ご自身でインターネットにつなげてご覧ください。

問合せ先：公益社団法人日本語教育学会支部活動委員会

E-mail: shibu@nkg.or.jp TEL: 03-3262-4291 (平日 9～18 時のみ)

◆支部集会日程◆

2019 年 12 月 14 日(土)文学研究科棟(C13)		
9:30	受付開始	文学研究科棟正面玄関
9:55-10:00	開会挨拶, 趣旨説明	文学研究科棟 113 講義室
10:00-12:00	看護と介護の日本語教師研修	文学研究科棟 113 講義室
12:00-12:30	昼食交流会	文学研究科棟 113 講義室
12:30-14:00	ポスター発表, 交流ひろば	文学研究科棟 学生談話室
14:00-15:00	口頭発表	文学研究科棟 113 講義室
15:10-17:00	対話のひろば	文学研究科棟 135 講義室
17:00-17:05	閉会挨拶	文学研究科棟 135 講義室

開会挨拶・趣旨説明

【9:55-10:00／113 講義室】

看護と介護の日本語教師研修 【10:00-12:00/135 講義室】

共催:看護と介護の日本語教育研究会 ※本プログラムは公募による支部活動企画です。
『介護の日本語』の実践 ―対象者と学習項目・学習支援を考える―

講師:三橋麻子氏・丸山真貴子氏(看護と介護の日本語教育研究会/明海大学・大原学園)

近年の介護業界における外国人従事者の動きや日本語教育に、ますます注目が高まっています。

本研修では、まず、「介護の日本語」学習対象者となる人にはどのような人がいるのか、それぞれの横のつながり等についても紹介しながら整理します。そして、ワークショップでは、「外国人介護従事者に必要な学習項目」と、「外国人介護従事者への学習支援」について考えていきます。

日本語教育の立場から、どのような支援ができるのか、一緒に考えましょう。学習支援をされていてお困りの方からのご質問もお受けします。

昼食交流会 【12:00-12:30/113 講義室】

※時間が短いので、昼食をご持参されることをお勧めします。

ポスター発表 【12:30-14:00/学生談話室】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は4ページ〜、詳細は予稿集をご覧ください。

- ① 英語圏からの中級日本語学習者を対象とした接触場面アンケート調査
高屋敷真人(関西外国語大学)
- ② 「ナイツモリ」と「ツモリハナイ」の違い―両者の互換性と教え方の再考―
ラムホーティム(国際教養大学大学院生)
- ③ 中国語母語話者による「テクレル」と「テモラウ」の使い分け
齐琳(国際教養大学大学院生)

交流ひろば 【12:30-14:00/学生談話室】

※「交流ひろば」は、日本語教育とその関連領域の話題についての参加者相互の情報共有および同じ興味や問題意識を持つ者同士のネットワーク作りを目的としています。審査を経た学会発表ではありません。

「交流ひろば」への出展は、学会員・非会員に限らずどなたでも可能です。

①筑波大学 日本語・日本事情遠隔教育拠点の紹介

伊藤秀明(筑波大学)・文昶允(同)

筑波大学 日本語・日本事情遠隔教育拠点では、日本語教育コンテンツ、評価システムを公開しています。コンテンツの使い方の紹介とともに、現場での活用法や今後の協力などについて一緒に考えていきたいと考えています。興味のある方はぜひお越しください。

② 日本語でより良い人間関係を築けるコミュニケーションを目指す―大学院日本語教育実習での実践をもとに―

島崎薫(東北大学)・荒井美咲(東北大学大学院生)・稲飯亜有美(同)・呉世貞(同)・尚佳思(同)・出蔵咲野(同)・野坂実央(同)・路子璇(同)

私たちは大学院の日本語教育実習として、学内での留学生がおかれている状況や直面している課題を分析し、そ

れらを解決するための日本語コースとして、日本語でより良い人間関係を築けるコミュニケーションができることを目指すコースをデザインしました。今回はその実践を皆様と共有し、様々な方々からご意見、コメントを頂戴できればと思っています。

③ 中上級日本語学習者向けのコロケーション検索システム「かりん」(スマホ版)の紹介

中溝朋子(山口大学)・坂井美恵子(大分大学)・金森由美(同)

私たちは、主に中上級レベルの日本語学習者向けの書き言葉を中心としたコロケーション検索システム(スマホ対応)を開発・改善を行っています。ぜひ閲覧・体験していただき、ご意見・ご感想をいただけたらと思います。

④ 初級日本語学習アプリの利用と運用を支える仕組み作り

黒田史彦(首都大学東京)

スマートフォンなどで初級日本語を学ぶ学習アプリの開発に取り組んでいます。現在までに完成したコンテンツを試用していただき、コメントやご意見をいただきたいと願っています。今後の利用や運用の拡充に関するアイデアも募集します。ぜひ、展示ブースまでお越しください。

口頭発表

【14:00-15:00/113 講義室】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は5ページ～、詳細は予稿集をご覧ください。

① 14:00-14:30 上級学習者の語彙力に関する考察—学部留学生の場合—

大野早苗(順天堂大学)

② 14:30-15:00 認知特性を活かした漢字学習法の指導

—視覚認知と視覚的記憶力に優位性が見られた学習者への漢字指導の試み—

樋渡康敬(国際教養大学)・橋本洋輔(同)

対話のひろば

【15:10-17:00/135 講義室】

「ちょっと『となり』を覗いてみよう—日本語教育の多様なありようを学び合う」

進行: 島崎薫(日本語教育学会東北支部委員/東北大学)

ひとくちに「日本語教育」と言っても、そのありようは多様です。たとえば、日本語学校、地域日本語教室、大学における日本語教育を比べれば、実践の場所が異なるということだけではなく、その目的、参加者(教師や学習者)、方法などは実にさまざまであることに気づきます。しかし、各分野で日本語教育に携わる他の人たちが、どのような実践をしているのか、どのような工夫をしているのか、あるいは、どのようなことに悩んでいるか、私たちは意外と知らないものではないでしょうか？

そこで、本企画では、日本語教育のさまざまな分野で実践する人びとが集い、気楽な雰囲気に対話することを通じて、学び合うための機会を設けたいと思います。分野は違っても同じ日本語教育に携わるものどうし、「となり」の様子を覗いてみることで、実践のヒントや“元気”を分かち合ひましょう。

参加者どうしがカフェにいるようなリラックスした雰囲気に対話します。日本語教育について「最近、気になっていること」「今さら聞きにくいけど、聞いてみたいこと」「実践で大切にしていること」などについて自由に話し合えるような学びの場づくりを目指します。

閉会挨拶

【17:00-17:05/135 講義室】

[2019 年度第4回支部集会(東北大学, 2019.12.14) ポスター①]

英語圏からの中級日本語学習者を対象とした接触場面アンケート調査

高屋敷真人

本発表は、関西外国語大学留学生別科中級日本語コースのシラバス作成のための参考資料として、留学生に対して行っている接触場面の実態調査について報告するものである。調査は、質問紙によるアンケート調査とログシートによる記録、及び、面接によるフォローアップ・インタビューで行われた。関西外大留学生別科は、二学期制（秋学期・春学期）で開講されており、毎年、北米を主とする提携校から約 650 名の交換留学生在が学んでいる。学生は、日本人学生も居住するキャンパス内の寮で生活する者が約 70%で、残りの留学生はホームステイをしている。この調査の目的は、英語圏からの中級日本語学習者がいつ、どこで、どのような日本人と接触を図っているのか、日本語学習におけるニーズや興味・関心はどこにあるのかについて調査することにより、学習者を起点としたコミュニケーション場面 [接触場面] からのシラバスデザインや文法項目を再考することである。

(関西外国語大学)

[2019 年度第4回支部集会(東北大学, 2019.12.14) ポスター②]

「ナイツモリ」と「ツモリハナイ」の違い

—両者の互換性と教え方の再考—

ラムホーティム

本研究では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」と日本語母語話者への質問紙調査・事後インタビューを用い、意志を表す「ツモリ」の否定表現について調査した。その結果、「ツモリハナイ」という否定の形は「ナイツモリ」より多く使われており、しかも感情的に否定の意志を伝える機能を持つことが分かった。さらに、二つの表現は一定の互換性があり、「ある行動をとらないことを決めた」場合には互換できる一方、「話し手がその行動をとることについて考えたことがない」場合と「相手や世間の想定を否認する」場合には「ツモリハナイ」の形しか使えない。また、両者は一定の互換性があるとはいえ、微妙な意味の差異がある。「ナイツモリ」からは話し手がその行動をしたいかしたくないか判断できないのに対し、「ツモリハナイ」は話し手がその行動を望まないからしないという意味が明確であることが判明した。以上の結果に基づく指導法の提案も試みる。

(国際教養大学大学院生)

[2019 年度第4回支部集会(東北大学, 2019.12.14) ポスター③]

中国語母語話者による「テクレル」と「テモラウ」の使い分け

齐琳

本研究は日本語学習者横断コーパス I-JAS や質問紙調査などを用いて、日本語母語話者(JNS)と中国語母語話者(CNS)を対象に授受表現「テクレル/テモラウ」の使用頻度や使用における特徴を比較した。その結果、JNS に比べて CNS の授受表現の使用頻度は低いが、上級になると「テモラウ」の使用比率も JNS に近づくなど、使用方法には大差がないことが分かった。ただ、CNS の特徴として、「恩恵の与え手が『ウチ』関係でも、その行為をする義務がない恩恵の与え手の場合は『テモラウ』を用いる」といった独自の文法を形成しやすいこと、CNS は JNS に比べて「テクレル/テモラウ」どちらも使用するケースが少ないことが判明した。そのため、JNS 同様に「テクレル」と「テモラウ」を状況に応じて柔軟に使い分けできるように指導することや、中級レベルで授受補助動詞の習得を促進するような指導が必要であることを提言したい。

(国際教養大学大学院生)

[2019 年度第4回支部集会(東北大学, 2019.12.14) 口頭①]

上級学習者の語彙力に関する考察

—学部留学生の場合—

大野早苗

本発表では、上級学習者が新書や小説などの読解に取り組む際、辞書を引いて意味・用法を確かめた語を品詞、および意味からカテゴリー分けすることによって、日本語話者の大人が普通に理解できるレベルの一般的な書籍を困難なく読むために習得すべき語彙の特徴を明らかにすることを目的とする。分析にあたっては、学習者が日本人の一般向け書籍の読解を行う授業で作成した単語・ノートに記載し、辞書等で意味・用法を調べた語・表現を文法および意味の観点からカテゴリー分けした。その結果、日本語話者向けの書籍を読むためには、用(動詞の仲間)、相(形容詞・形容動詞・副詞等の仲間)のカテゴリーに属する語彙、「心」に関する語彙が不足していることが明らかになった。

(順天同大学)

[2019 年度第4回支部集会(東北大学, 2019.12.14) 口頭②]

認知特性を活かした漢字指導

—視覚的認知と視覚的記憶力に優位性が見られた学習者への漢字指導の試み—

樋渡康敬・橋本洋輔

漢字を何度も書き写しながら覚える方法(視覚法)を使用して漢字を熱心に勉強しているにもかかわらず、漢字テストでいい結果が得られない一人の学習者の認知特性を AVLT, ROCFT, MFFT を含む神経心理学的検査を使用して調べたところ、予想に反して ROCFT と MFFT の数値が高く、視覚認知や視覚的記憶力が高いことが分かった。そこで、この認知特性を活かすために、学習者の漢字練習のプロセスを文字の全体を意識するステージと文字の部分を意識するステージに分け、4つの学習法を導入した結果、漢字学習の効率が上がり、漢字テストの結果にも改善が見られた。これらの検査や指導を通して、視覚的認知機能が特に高い学習者であっても、従来の視覚法では効果があがらない可能性があることがわかった。従来の視覚法に全体と部分を意識させる新たなプロセスを加えることにより、この認知特性をより活かした学習が可能になったのではないかと考えられた。

(国際教養大学)

以上